

中田久恵 選 投稿数17首

詠みし短歌墓石に彫りて残したる兄追悼の忌日めぐり来
 (評) 先の選者佐宗利信先生を偲ぶ歌である。妹が兄を思う哀愁にみちた挽歌で、兄への深い敬慕と悲しみの心情が吐露され胸に沁みる秀歌である。「願はくば花の下にて春死なむその如月の望月のころ」と詠まれた西行法師の如く、桜と共にのお旅立ちであった。又後半生の二十一年間短歌一筋に生き「言葉は無限」と篤く説いて「指導下さった先生を偲んでいる。もう鬼籍に入られて七年が過ぎてしまった。しかしそのお声はまだ私の耳に残っている。豊田さん嫁いだ娘さんへの愛と淋しさが詠まれ幸を祈る親心が「レタスをちぎる」に凝縮され秀逸。
 若草の妻となりたる末娘細き指先レタスをちぎる 皆野 新井 愛子
 ベクレルやセシウムなどと去年迄知らずにすんだ言葉なりしが 三沢 鈴木 貞恵
 削られて武甲の山は痛ましきなれど雄姿はピラミットに似て 三沢 鈴木久良子
 外つ国の百年桜散り初むに吾が美の山は蕃彩づく 三沢 新井 民子
 小さき子に「ハルガキタヨ」のチーズ文字ピッツア焼きあげて鼻擦らる 皆野 引間 万亀
 彼岸会や夭折の子の遺影に詫びる術なき母は悲しも 三沢 長谷河ソノ
 折折に孫の成長顯著にて老い増す吾は力貸りつつ 皆野 根岸 詩子
 日光の奥社詣での婆一人二百余段を杖つき登る 皆野 関根 助市
 賑わえる小江戸の春を巡りゆき土産をえらぶ菓子屋横丁 三沢 眞下 杏子
 癌を病み逝きし弟の骨軽く拾ふも悲し木の合箸に 下日野沢 浅見 豊子
 祝盃を一気に飲み干す花嫁の父の瞳に涙あふるる 皆野 井上喜美子
 銃納めなにかさみしく思う日は日白鳴かせて心まぎらす 三沢 長谷河光久
 「いい顔をしていますね」と雛さまに言葉かくれば笑み返すがに 三沢 新井 叶子
 今日もまた歩いて来たぞ老婦人思わず笑顔で挨拶交わす 皆野 市川 岳樹

引間豊作 選 投稿数19句

残雪の嶺々従えて武甲山の秀
 (評) 武甲山は、秩父盆地の南端にある山で、秩父市と横瀬町の境界に位置し、標高は一三〇四メートル。セメントの原料となる石灰岩の山であることは、広く知られている。秀とは、ぬきんでて目につくことを意味する言葉。武甲山が春の終わりの頃になると、残雪に耀く周囲の山々の中心となり、一際目立った存在となる。山名の由来は、日本武尊が、自らの甲をこの山の岩室に奉納したという伝説が元禄時代から定着したとする説と、どこから見ても武人の兜のごとき勇姿からとする二つがある。
 あたたかや試歩の延び行く父母の墓 祝盃を一気に飲み干す春の宴 皆野 井上喜美子
 稜線に柳眉の柔き春の月 三沢 眞下 杏子
 啓蟄や花苗植うる妻と居て 春光や新顔遊具手招きす 皆野 引間 千鶴
 金崎 堀口 輝吉
 畑一枚穂の苗木を遺し逝く 教へ子は孫を語り木々の芽風 三沢 長谷河ソノ
 下校児の黄帽の上や春の雲 春めくと夢のふくらむ旅支度 皆野 関根 助市
 金沢 飯嶋満寿子
 絡みつ寝る子や温し春疾風 無心なる弓道場に初音聞く 三沢 澤野 恒平
 皆野 太幡真由美

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して
 総務課へお寄せください。
 1人1句、1首に限ります。
 8日必着

ちちぶ定住自立圏ロゴマーク・キャッチフレーズ決定



ちちぶ地域の行政サービスの向上を目指して活動を進める、ちちぶ定住自立圏推進委員会では、定住自立圏事業を普及啓発し、さらに連携強化を図るため、シンボルとなるロゴマーク・キャッチフレーズを決定しました。

1歳のお誕生日おめでとう



さちほ
幸穂ちゃん



ちなつ
智夏ちゃん

根岸区 浅見 寿文さん 裕子さん
 たくさんの幸せをありがとう。
 いつまでも笑顔をお忘れずに！

戦場・土京区 今野 貞治さん 彩子さん
 大好きなちなつちゃん。
 みんなに愛されて元気に育ってね！